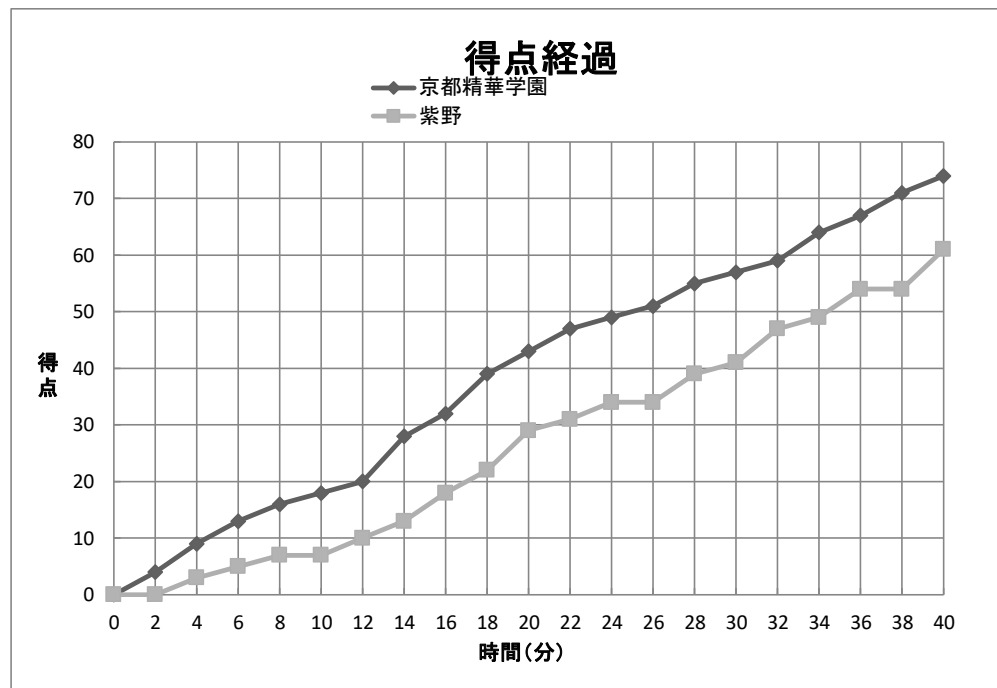


第70回 全国高等学校総合体育大会 京都府予選 兼  
第64回 近畿高等学校バスケットボール大会 京都府予選

個人トータル表

女子		平成29年6月3日 12:00 開始				ハンナリーズアリーナ M															
決勝																					
◎ 京都精華学園 74		<table border="1"> <tr><td>18</td><td>1st</td><td>7</td></tr> <tr><td>25</td><td>2nd</td><td>22</td></tr> <tr><td>14</td><td>3rd</td><td>12</td></tr> <tr><td>17</td><td>4th</td><td>20</td></tr> </table>				18	1st	7	25	2nd	22	14	3rd	12	17	4th	20	61		紫野	
18	1st	7																			
25	2nd	22																			
14	3rd	12																			
17	4th	20																			
番号	氏名	得点	3P	2P	FT	反則	番号	氏名	得点	3P	2P	FT	反則								
* 4	南部 多咲	21	0	7	7	3	* 4	佐藤 なつ希	8	2	1	0	2								
5	山崎 美菜	0	0	0	0	-	* 5	松浦 琴音	15	5	0	0	1								
6	藤田 萌衣	0	0	0	0	-	* 6	山本 珠生	11	1	4	0	4								
* 7	室井 愛生	11	0	5	1	1	* 7	松田 晏奈	4	0	2	0	2								
* 8	石島 侑果	6	2	0	0	-	* 8	津崎 三菜子	8	0	3	2	2								
9	竜崎 まなつ	0	0	0	0	-	9	松田 栞奈	0	0	0	0	-								
* 10	山本 静花	6	0	3	0	3	10	飯田 眞子	0	0	0	0	-								
11	山口 あゆみ	0	0	0	0	-	11	田中 真帆	0	0	0	0	-								
12	川寄 亜紗子	0	0	0	0	-	12	中原 涼那	4	0	1	2	1								
* 13	高橋 未来	17	0	8	1	-	13	松本 晏奈	6	0	2	2	2								
14	松尾 祥花	0	0	0	0	-	14	澤岡 夢乃	0	0	0	0	-								
15	下間 ほのか	0	0	0	0	-	15	阪本 真希	2	0	1	0	1								
16	白石 あゆみ	2	0	1	0	-	16	阪本 咲希	0	0	0	0	-								
17	関 瑞葵	0	0	0	0	-	17	吉村 朋子	3	0	1	1	1								
18	渡邊 夕風	11	0	3	5	3	18	東 史野	0	0	0	0	-								
コーチ	伊與田 好彦						コーチ	吉田 聡													
Aコーチ	町田 瀬名						Aコーチ	野村 安寿里													
合計		74	2	27	14	10	合計		61	8	15	7	16								
<p>主審：岩木 太郎 第1副審：田中 智也 第2副審：小出 聡子</p>																					



〔戦評〕  
決勝戦は、今大会で5年連続となる京都精華学園対紫野。両チームともオールコートのマンツーマンディフェンスでゲーム開始。精華学園は1年生の#13のドライブイン、#4のポストブレイや#8の3Pで序盤からリズムに乗る。一方紫野は積極的に3Pを狙うが、リングに嫌われる。ようやく#4が3P、#7がリバウンドルーズからのシュートを落ち着いて決める。しかし、まだリズムを掴み切れない紫野は残り5分を切ったところでタイムアウトを要求。タイムアウト明け、先に仕掛けに来たのは精華学園。オールコートで2-2-1のゾーンプレスでプレッシャーをかけ、紫野にリズムを掴ませない。18対7で第1ピリオド終了。

第2ピリオドは紫野の#5、#4の3P、#12のジャンプシュートで追いつきにかかる。流れを引き渡したくない精華学園はタイムアウトを要求し、その後再びオールコートのゾーンプレス仕掛け、紫野のボール運びを苦しめる。精華学園の#13の1対1や#4への合わせのプレーを止めることができず、じわじわと点差が開き始める。たまた紫野のタイムアウト。紫野はゾーンプレスを上手くかわし、#13と#6の、“何とか追いつきたい”という気持ちの速攻と3Pを決める。両チームとも取っては取り返すという激しい攻防となり、43対29で精華学園がリードを保ったまま前半を折り返す。

第3ピリオドは、紫野の鋭いドライブで、リングに近づくプレーが増え始め、オフェンスとディフェンスのリズムを掴み始める。しかし、精華学園の#8の、体の小さいプレーヤーのオフェンスリバウンドなどが光り、精華学園のリードが続く。紫野は1年生の#17のドライブインでフリースローを獲得。精華学園は、もう一度リズムを作るため、フォーメーションで得点を狙い、これを紫野が研究済みだったため、#13のパスカットから速攻へ持ち込み、ファウルをもらう。このフリーフローを1本決め、57対41で最終ピリオドへ。

第4ピリオドの出だして紫野の#6、#4、#17が得点し、59対47と、一気に12点差まで詰め寄る。たまた精華学園はタイムアウトを要求。大事な場面で確実にリバウンドを取り、得点を重ねる。残り6分で後半2回目のタイムアウトを要求する紫野。何としてでも追いつきたい紫野はボールマンに対してダブルチームでプレッシャーをかけ、ボールを奪い、#5が3Pとジャンプシュートを決め、4点連続プレーを見せる。しかし、紫野のディフェンスをうまくかわし、精華学園の#10と#13がジャンプシュートを落ち着いて決め、点差を広げる。残り3分を切ったところで紫野は最後のタイムアウトを要求。オールコートでプレッシャーをかけ続け、執念でリングへ向かうが、なかなか得点につながらず、最終74対61で精華学園が2年連続でインターハイへの切符を手にした。

両チームとも、2、3年生のインターハイへの想いと、1年生の新しい風を感じた試合となった。  
記録：菟道高校  
戦評：久保 春奈 [京都市立塔南高等学校]